

長野県北部のトリゲモ類 (イバラモ科)

小澤 正幸 (埼玉県入間郡名栗村下名栗 243)

野口 達也 (栃木県宇都宮市東宿郷 6-7-10)

Masayuki Ozawa and Tatsunari Noguchi : On subgen. *Caulinia* (Najadaceae) in Northern Nagano Prefecture

はじめに

トリゲモ類 (Subgen. *Caulinia*) は、イバラモ科の沈水性一年草である。

今回、長野・飯山方面の水田地帯を調査し、数種のトリゲモ類を採集したので報告する。なお採集は小澤、同定は野口が担当した。

1. 確認種と随伴種

長野県北部において確認したトリゲモ類は、サガミトリゲモ、ホッスモ、イトトリゲモの3種である。サガミトリゲモ、イトトリゲモは、環境庁 (1997) で絶滅危惧ⅠB類 (EN) にランクされている。確認地点は以下の5地点で、確認種とおもな随伴種を付記する。

① 長野市広瀬 alt. 870m 水田

イトトリゲモ

随伴種: ミズオオバコ

② 下水内郡豊田村親川 alt. 520m 水田

サガミトリゲモ・ホッスモ・イトトリゲモ

随伴種: ヤナギスブタ・ミズオオバコ

③ 飯山市静岡 alt. 450m 水田

サガミトリゲモ

随伴種: オモダカ・ミズオオバコ

④ 長野市信更町 氷ノ田 alt. 570m 水田

サガミトリゲモ

随伴種: オモダカ・ヤナギスブタ・ミズオオバコ

⑤ 上水内郡牟礼村袖之山 alt. 670m 水田

サガミトリゲモ・イトトリゲモ

随伴種: ヘラオモダカ・ミズオオバコ

2. トリゲモ類の生育環境

今回確認した生育地は、いずれも耕作中の水田であった。しかし水田全面に生育しているわけではなく、水田の山側に掘られた溝とその周辺にのみ生育していた。

この溝は、染み出してきた水が直接水田に入るのを防ぐ目的、または水の冷涼な山間の水田において用水の水温を上昇させる目的で掘られている。前者の場合は「うわあぜ」や「よけぼり」、後者の場合は「ぬるめ」や「ぬるせぎ」などと呼ばれている。

溝には常に水が溜まっており、トリゲモ類以外にもヤナギスブタやミズオオバコといった現在あまり見られなくなった水田雑草も生育している。

下水内郡豊田村親川を除いた生育地は、溜池のすぐ下の水田と山間の一番上の水田であった。これはトリゲモ類が除草剤の影響を受けやすい植物であることを示唆している。

また、トリゲモ類が確認された水田の周辺では、近年あまり見られなくなったハイメドハギやスズサイコ、ヒメシオン、オガルガヤなどの草性植物が生育していた。

3. トリゲモ類の見つけ方

トリゲモ類は沈水性で目立ちにくく、証拠標本を伴った長野県内の確認例は少ない（長野県植物誌編纂委員会編，1997）。

トリゲモ類の見つけ方は、野口（1995）に詳しい。長野県北部においては、溜池や放置して間もない休耕田のほか、今回報告したような常に水の溜まっている水田山側の溝を中心に探すとよい。特に注目すべきは、溜池のすぐ下や山間の上部の水田である。

ヤナギスブタやミズオオバコなどのより大型の随伴種を見つかることも、トリゲモ類を発見する手がかりとなる。

今回の調査では下水内郡豊田村親川で3種、上水内郡牟礼村袖之山で2種のトリゲモ類が混生していた。このようにトリゲモ類は2、3種が混生していることが多く、1種を確認した場合は、さらに確認される可能性が高い。

トリゲモ類は野外での識別が困難な分類群なので、生育を確認した場合は、必ず証拠標本を作成したいものである。

4. 長野県産トリゲモ類の標本目録

今回の標本も含めた、長野県産トリゲモ類の標本を以下に示す。

① サガミトリゲモ（ヒロハトリゲモ）

Najas foveolata A.Br.

- ・諏訪郡富士見町富士見
Aug.20,1978今井建樹(諏訪教育会所蔵)
- ・下水内郡豊田村親川 alt.520m水田
Aug.4,1998小澤正幸(4186)
- ・松本市岡田塩倉 柴入池 alt.680m溜池
Aug.31,1998小澤正幸(4269)
- ・飯山市静岡 alt.450m水田
Sept.1,1998小澤正幸(4273)
- ・長野市信更町 氷ノ田 alt.570m水田
Sept.11,1998小澤正幸(4335)
- ・上水内郡牟礼村袖之山 alt.670m水田
Oct.20,1998小澤正幸(4524)

松本市岡田塩倉産は、他の地域と比較すると、葉身が細く、種子の形態にも若干の違いが見られる。本種の染色体数として、 $2n=12, 24, 36$ が報告されており（大滝・石戸，1980），今後、染色体数や他県の標本との比較も含めて再検討する必要がある。

② ホッスモ

Najas graminea Del.

- ・下伊那郡高森町吉田河原
Jul.24,1932奥原弘人(SHIN524)
- ・下伊那郡高森町下市田
Aug.16,1934奥原弘人(SHIN523)
- ・大町市木崎湖alt.700m
Aug.31,1979船越真樹(SHIN125235)
- ・下水内郡豊田村親川 alt.520m水田
Aug.4,1998小澤正幸(4188)
- ・下伊那郡喬木村富田 alt.640m休耕田
Aug.6,1998小澤正幸(4223)

③ イトリゲモ

Najas japonica Nakai

- ・下伊那郡阿智村立石alt.520m
Sept.15,1991松田行雄(SHIN144826)
- ・長野市広瀬 軍足池下alt.870m水田
Aug.3,1998小澤正幸(4183)
- ・下水内郡豊田村親川 alt.520m水田
Aug.4,1998小澤正幸(4187)
- ・下伊那郡喬木村富田 alt.640m休耕田
Aug.6,1998小澤正幸(4222)
- ・上水内郡牟礼村袖之山 alt.670m水田
Oct.20,1998小澤正幸(4525)

④ トリゲモ

Najas minor L.

- ・伊那市手良沢 笠原 alt.820m溜池
Aug.22,1998小澤正幸(4245)

⑤ オオトリゲモ

Najas oguraensis Miki

- ・諏訪市諏訪湖 alt.759m
Aug.10,1965今井建樹（諏訪教育会所蔵）
- ・大町市木崎湖alt.700m

Aug.31,1979船越真樹(SHIN125234)

引用文献

おわりに

芹沢（1995）は水田雑草が減少した原因の一つとして、乾田化の影響をあげている。長野県北部は多雪地帯で、乾田化の影響が比較的少ない地域である。今後は長野県全域における分布状況などを検討したい。

謝 辞

標本の閲覧に便宜を図っていただいた信州大学の井上健教授、岡谷市の今井建樹氏に厚く御礼申し上げる。

環境庁（1997）植物版レッドリスト。環境庁，東京。

長野県植物誌編纂委員会編（1997）長野県植物誌。信濃毎日新聞社，長野。

野口達也（1995）栃木県産種子植物の観察（1）。フロラ栃木 4：14-20。

大滝末男，石戸忠（1980）日本水生植物図鑑。北隆館，東京。

芹沢俊介（1995）エコロジーガイド 人里の自然。保育社，大阪。